

平成30年産 J A古川環境保全米 栽培体系

使用量：10 a 当たり

土づくり	
持続的安定生産を図る上では、土に活力を与えることが重要です。	
①	堆肥は1ト/10aを施用して下さい。
②	生わらに「ゆうき100ばい」30kg/10a等を施用し全量すき込みして下さい。
③	「けい酸加里プレミア34」肥料の施用で、根の活力向上を図りましょう。
※ 土壌条件や地力に合わせて使用して下さい。	

施肥	
①	基肥・追肥の使用量は、品種、土壌条件を考慮し右記の使用量を上限として施用して下さい。
②	育苗資材としてファイト・オーツ（1.5葉期と2.5葉期）を2回散布して下さい。
③	基肥、追肥は、右記の肥料を基本としますが生育期間中（育苗＋基肥＋追肥）に使用する化学肥料窒素成分量が3.5kg以内であれば他の肥料も使用できます。
④	追肥用「有機追肥538」は、窒素成分15%のうち有機由来窒素が50%含まれております。
⑤	東北194号（ささ結）は、食味を重視し低タンパクを目指すため、追肥はしないで下さい。
※ 詳しくは、支店営業課・営農センターへご相談下さい。	

化学窒素成分量の計算例

単位：kg/10a

作業名	肥料名	現物量	全窒素	うち化学窒素
育苗	機械用育苗肥料 20g/箱 10a苗22箱使用	0.44	0.044	0.044
基肥	みやぎ米有機一発218	40.00	4.800	2.400
追肥	NK化成C68号	6.00	0.960	0.960
合計			5.804	3.404

項目	環境保全米					
	ひとめぼれ、つや姫、ササニシキ、東北194号（ささ結）					
作業名	予定時期	使用資材名	使用量	成分数		
種子消毒	3月	温湯消毒または微生物農薬		0		
苗立枯病	4月	タチガレエースM粉剤・液剤 またはタチガレン粉剤・液剤	6～8g 1ml/箱	2 (1)		
発根促進	4月	ファイト・オーツ	1ml/箱 2回散布	—		
基肥	5月	環境保全米名人N12 みやぎ米有機一発218 ネオペースト1号	ササニシキの例 ひとめぼれの例 30kg以内 40kg以内 20kg以内	—		
害虫・葉いもち	4・5月	ファーストオリゼフェルテラ粒剤 Drオリゼフェルテラ粒剤 側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤	(床土混和～播種時覆土前) (緑化期～移植当日) (移植時ペースト肥料に混和) 50g/箱 500g	2		
除草	5月	シュナイデン 1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ	1kg 500ml・400g	3		
追肥	7月	NK化成肥料16-0-18 (NK化成C68号) または有機追肥538	(東北194号は追肥はしない) 6kg以内 10kg以内	—		
稲こうじ病	7月	Zボルドー粉剤DL	3kg	0		
いもち病	7月	カスミン液剤	1000倍液	0		
紋枯病	7月	バリダシン粉剤DL またはバリダシン液剤5	3kg 1000倍液	0		
カメムシ類防除	8月	スタークル1キロ粒剤・粉剤DL・液剤10・豆つぶ またはスタークルメイト1キロ粒剤・液剤10	1kg・3kg 150ml・500g	1		
基肥施用の例		10a現物量	全窒素量	うち化学窒素成分量	農薬成分数の合計	
環境保全名人N12		30kg	3.6kg	1.8kg (N12%の内、化学N6%のため)	8	
みやぎ米有機一発218		40kg	4.8kg	2.4kg (N12%の内、化学N6%のため)		
ネオペースト1号		20kg	2.4kg	2.4kg (N12%が全て化学窒素のため)		
					化学窒素成分量の合計	3.5kg以内

農薬	
①	殺虫殺菌剤（オリゼフェルテラ剤）は、薬剤によって使用時期、使用方法が異なるため、注意して使用下さい。 また、防除効果を得るため1箱当たり50gを確実に施用して下さい。
②	Zボルドー粉剤DLは、稲こうじ病多発圃場で使用して下さい。
③	カメムシ類の防除は、1回だけの使用となります。
④	オリゼフェルテラ剤は、紋枯病への効果はありませんので、圃場を見回り、防除が必要な場合、バリダシン剤を使用して下さい。
※ 詳しくは、支店営農課・営農センターへご相談下さい。	

注意事項	
①	環境保全米は、上記農薬を使用して下さい。
②	環境保全米は、カントリー利用を基本とします。
③	検査等級は、1等米を基本とします。